

自動運転を題材とした授業

一習得・活用型の中学校2年生地理的分野関東地方の実践一

教育実践高度化専攻 教科指導重点コース 言語・社会科学系（社会）

栗本 一輝

本研究は、近年急速に進む自動運転を題材とした授業開発を目的とする。なぜなら、自動運転が、時代に合った題材として適しており、地域の特色を捉える上でも有用であるからである。具体的には、日本で近年進められる自動運転は、自治体が国の補助金を得て実証実験を行う形が採られており、自動運転の技術も途上であることから、自治体の抱える交通課題に対して運行ルートや頻度、車体の大きさや速度などが異なるからである。そのため、地域に合わせた自動運転を調べ、考える際に、その地域の特色や抱える社会課題が見えてくるからである。

方法として、中学校2年生の地誌学習において、関東地方について学習させた後、関東地方のどこに自動運転を取り入れるべきかという問いを提示する学習の流れをとる。これは、社会科教育における授業の方法として一般的な流れであるが、以下の二点が特徴である。

一点目は、近年急速に拡大する自動運転について取り上げた点である。二点目は、実際に自動運転をどこに導入すると良いのか考えさせ点である。これらの二点は、社会の変化に対応する内容、特に自動運転の内容を取り入れ考えさせることに新しさがある。